

佐世保市の水源確保対策

佐世保市はこれまで何度も給水制限の実施に至る厳しい渇水に直面してきました。この間、実施してきた水源確保対策は石木ダム建設だけではありません。石木ダム建設以外にも、少しでも水事情を改善できる見込みがあり、実行可能な方法があればその都度着手しています。ここでは平成6年から7年にかけての未曾有の渇水を契機に進めてきた対策を紹介します。

● 下の原ダムのかさ上げ

既存の下の原ダムをかさ上げ(事業費約50億円)し、新たに約86万m³の容量(約10日分)を確保

● 川棚川暫定豊水取水施設の建設

石木ダムが完成するまでの間の暫定措置として、河川の流量が豊富なときに1日最大5,000m³の取水を行える取水施設を建設

● 小森川取水安定堰の建設

小森川からの取水を安定させるための堰を建設

● 南北融通施設の建設

平成6年の渇水時に南部地域が1カ月早い給水制限に入ったことを契機に南北水系で水を融通する施設を建設

● 再生水処理施設の建設

下水処理水をトイレ洗浄等の水に再利用する施設を建設し佐世保駅周辺での利用を促進

このように実現性がある対策を進めてきましたが、水源不足の抜本的な改善には至らず、その後160日間の減圧給水制限(平成19～20年)を実施するなど、繰り返し渇水の危機に瀕してきています。佐世保市の水事情を安定化するためには、まとまった量の水源を新たに確保しなければなりません。次号では、抜本的な水源確保対策について、石木ダム以外にどのような方法を検討してきたのかを紹介する予定です。

☎水道局総務課、水源対策・企画課 ☎24-1151

九十九島と写真

カメラマン 和-KAZU-(葛城和久さん)



「もっと見たことがない九十九島が見たい」

九十九島の美しさに魅了され、これまでの6年間は一瞬レフで九十九島の夕景を主に撮影してきました。しかし、撮っていくうちに「もっと見たことがない景色が撮りたい」と思うようになり、ドローン空撮を始めました。

ドローン越しに見た九十九島はまた別世界で、島々の木々の緑と透き通る青い海のコントラストなど新たな発見ばかり。まだまだ知らない九十九島がたくさんあると感じました。

「世界で最も美しい湾、九十九島」のPRポスターに使用されている写真を撮影した日は展海峰に向かう途中で、ふと海を見ると、海面がすごくきれいに鏡面化していることに気付き、何とかこの美しさを撮れないかと思い、急ぎょ空撮に切り替えました。空から見た景色は遠方まで海がキラキラと輝き、そこに偶然きれいな波紋とともに寄港する小船を発見し、この瞬間は二度と撮れないと思い、夢中で撮影したのを覚えています。

今後もマルチなアーティストとして自分なりの感性を生かし、九十九島の美しき瞬間に出会えるように日々の活動に努めたいと思います。

☎観光課 ☎24-1111

長崎県初の義務教育学校 黒島小中学校の開校とうれしいプレゼント!

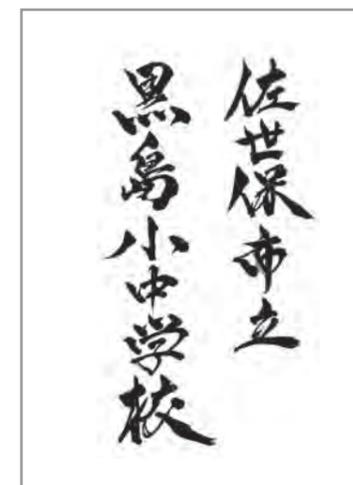


10月14日、長崎県で初の義務教育学校として開校した黒島小中学校(愛称:黒島はまゆう学園)の新校舎や体育館などの新築落成記念式典が同校で開催され、児童・生徒や保護者、地域役員、市議会議員、教育委員など多くの関係者が出席して新たなスタートをお祝いしました。

義務教育学校とは、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して系統的な教育を目指すもので、学校規模の適正化に対応する小中一貫教育制度として国が制度化したものです。黒島小中学校は、前期課程(1～6年生)9人、後期課程(7～9年生)7人の計16人でのスタートとなりました。

この新校舎の落成と義務教育学校のスタートに当たり、その記念として、校門の門柱の文字を本市出身で佐世保親光名誉大使であるEXILEのTAKAHIRO氏に揮毫してほしいと黒島小中学校の子どもたちが校長先生にお願いしたそうです。

そこで本市では難題でありましたが、子どもたちの夢を何とか叶えてあげたいという思いで、教育長やTAKAHIRO氏の子どもの時代の恩師などを通じて所属事務所をお願いすることにしました。この案件は事務所としてもかなり難しいものだったようで、しばらく返事がいただけず、あき



TAKAHIRO氏が揮毫した書。これを基に石柱を彫りこみ、11月末ごろまでに学校に設置される予定です。

らめかけていましたが、その後事務所から朗報が届き、何と子どもたちの夢を実現していただけることになりました。

後日、上京した際に事務所を訪ね、TAKAHIRO氏が不在であったため、マネージャーの方に感謝の気持ちを伝え、お礼を申し上げました。その際、マネージャーの方から「TAKAHIRO氏は黒島の子どもたちのためにと事務所を説得して許可を得たんですよ。その後、練習を含め100枚以上も熱心に書いていました」という話を伺いました。

TAKAHIRO氏の「黒島の子どもたちのために」という熱い気持ちに感謝するとともに、ふるさと佐世保への思いを市民の皆さまに紹介したく市長日記に記しました。

佐世保市長 朝長 則男

徳育通信 82 聞いて「徳」する話 43 バイク乗りのあいさつ

生月島へ日帰り旅行をした時のことです。私が運転する前を5台のバイクが走っていました。平戸から生月へ向かう田舎道はちょっとしたワインディングで見晴らしも良く、バイクツーリングにはもってこいのコースなのでしょう。何度も何台もバイクとすれ違いました。すると、前の5台のバイク乗りさんは、その度に対向するバイクに大きく手を振られていました。そして、相手も皆、大きく手を振っていました。大きなバイクや小さなバイク、若者らしき人、おじいちゃんみたいな人、男女問わずみんなです。恐らく全く知らない、ただのすれ違い同士はずです。それが「バイク乗り」ということだけで、このすれ違う瞬間を共有されることに、後ろから見ていて、こちらもうれしくなりそうなほど、幸せそうな感じを受けました。日本ではコミュニティが薄れ、隣にどんな人が住んでいる

かも分からない時代になりますが、あいさつだけでも人と人がつながる瞬間がつけられることを改めて感じました。佐世保は徳育のまちです。バイク乗りの人たちが一瞬のつながりを大切にされるように、私たちも同じ市民としてあいさつでつながることができたら素晴らしいと思います。学校の行き帰りに子どもたちは大きな声であいさつしてくれます。私たち大人も負けずにあいさつしましょう。(匿名)

「聞いて徳する話」を募集中です。応募用紙は徳育推進会議事務局で配布し、市ホームページからダウンロードすることもできます。
☎佐世保徳育推進会議 ☎23-2856

人の動き(11月1日現在)

- 総人口 249,578人(前月比 -50人)
男性 118,200人(+19人) 女性 131,378人(-69人)
- 世帯数 105,607世帯(前月比 +40世帯)
- 10月中の動き
転入 593人、転出 555人 出生 189人、死亡 277人

広報番組

させぼ市政だより
キラっ都させぼ

あいあいプラザ
市立区公館

YouTube版
プレゼント応募